

都道府県名	長野県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	長野県 下伊那郡 阿智村立 阿智中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2 組	2 組	2 組	2 組	8 組	19人
生徒数	66人	72人	80人	4人	222人	

研究の概要

1. 研究主題

<p>&lt; 研究テーマ &gt;  <b>『確かな基礎的な学力の定着』と、『学び方を学ぶ学習』の両面をねらう学習指導はどうあったらよいか。</b>                  ~ 日常の授業に始まり授業で実証する研究をとおして ~</p>
<p>&lt; テーマ設定の理由 &gt;</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>読み書き計算ができただけでは困る、学び方が身についただけでも困る、その両方ができなくてはいけない。</p> </div> <p>我々は、自己教育力を身につけ、生涯にわたって、自ら学習することができる生徒の育成をねらって指導してきた。生徒が、自ら課題を見つけ、その解決の方法を考え、それに向かって粘り強く挑戦し課題を解決し、自己を評価し、新たな課題を見つけ追求していく能力の育成である。</p> <p>しかし、最近特に、生徒の基礎的な学力の不足が叫ばれるようになった。家庭での学習時間も全体的に少なく、読書量なども極めて少ない。授業中に教科書も開かず、時として机に打つ伏している生徒もいる。</p> <p>学ぶ姿勢も、基礎基本の学力も共に育っていない。というより、むしろ衰退しているのではないかという指摘もなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の主体性を大事にという考えの下、本来教師が教えるべきことを教えずに来たのではないか？</li> <li>・問題解決的な学習を狙い授業を構築してきたが、本当にその一時間の授業が問題解決的な学習になっていたのか？</li> <li>・一人一人の生徒の考えを大事にしてきたが、我々は真の意味で一人一人の生徒を観てきたのか？</li> </ul> <p>ここで、もう一度私たちは、中学校における一時間の授業のあり方を見直し、『確かな基礎的な学力の定着』と『学び方を学ぶ学習』の両面をねらって授業改善に取り組もうと考えた。</p> <p>さらに、我々の授業研究のあり方についても、もう一度原点に帰って考え直したい。今盛んに研究授業のあり方が取り沙汰されている。中には研究授業不要論まで出てきている。この様な中で、下記の点についてもう一度我々の研究のあり方を見直し学力向上フロンティア事業をすすめたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒から離れた研究になっていないか？</li> <li>・日常の授業とかけ離れた授業や、研究授業のための研究になっていないか？</li> <li>・授業を推進する授業者の思いや願いを実現する授業か？</li> </ul> <p>以上のことから、上記テーマを設定し、本校の日常の授業の充実と、本校生徒の真の学力が向上することを願った。</p>

## 2. 研究内容与方法

### < 研究の重点 >

- (1) 一時間の授業の充実（授業研究のあり方についても考える）  
日常の授業から出発し、生徒の姿から問題を把握し、生徒の姿で問題の解決を実証し、日常の授業がより確かなものになるための研究とする。
- (2) 教師のひとりよがりから脱却し、授業を受ける生徒の立場で  
個によせた学習指導を大事にする。一人一人の生徒の気持ちや考えを大事にし、できる限り個によせた授業展開を実践する。
- (3) 授業の始めに本時のねらいを明確にし、終末では次に生きる評価を  
一時間の学習のねらいを明確にし（教師も、生徒も）、終末ではこの時間でどんな力がついたか、どんな知識が身についたかを、授業の終わりに評価する。  
その評価は、単なる形成的な評価に終わらず、「ここまでできたが、あとここができない」「次の時間はここを勉強しよう」という評価とする。
- (4) 教材化が命  
教材や教具を生徒の実態に則したものとし、その素材の特性を活かしたものとす。そして、一人一人の教師の独創的な教材化を図る授業とする。
- (5) 生徒の学力とは  
生徒の学力の評価は、教師の主観と客観の両面を大切にす。特に、今までやや蔑ろにしていた客観的な評価を大事にする。

### < 研究の具体 >

#### (1) 実施学年・教科

- (1) 全教科、全学年・全学級を対象として研究実践をすすめる。
    - ・本校では、学力向上フロンティア事業は、日常の授業の充実を図らなければ意味がないという考え方にに基づき全教科、全学級で研究を実施する。
    - ・全教科で、今までの授業を省みて、一時間の授業が効率よく行われているか年に一度は校内で授業を公開しあい授業研究を行う。
- < 事例1 3年選択音楽 > 教師生徒共、ねらいを明確に持ち、授業の終わりに一時間のついた力が実感できた事例。  
題材名 「聴く側に気持ちが伝わる表現をしよう」  
教材名 「Amazing Grace」  
10時間扱い中第6時、授業の冒頭で今までの学習を活かして、全員出で合唱して録音をした。その録音から、各パートの課題を明確にし、一時間練習し、終盤合唱し録音し、全員で聴いた。明らかに美しくなった合唱に全員でこの一時間の授業の成果を実感した。授業者としてもこの授業の評価が容易にでき、次の授業の目的や教材化もできた。
- < 事例2 2年必修美術 > 限られた教材、極少ない時間の下に行わなければならない鑑賞の授業で、学習用のソフトウェアに着眼し、生徒の実態興味に合せた教材化を図った事例。  
題材名 「鑑賞教室03年 印象派から現代美術へ」  
2時間扱い中第1時、鑑賞の授業は生徒も意欲的になれず、また、鑑賞に堪える多くの図版はとても用意できない。学習用ソフトウェアを活用し、中世から印象派までの作品さらにそれ以降の作品300点を収録したソフトとそれを生徒に製作時期の古い順に予想させたり、比較させたりすることで、生徒たちは筆のタッチや、後景の処理など数多くの気づきや発見をして鑑賞の授業を生き生きと展開した。
- < 事例3 2年必修英語 少人数指導 >  
習熟の程度に応じて、2学級72人の生徒を、3コースに編成し、3人の教諭と1人のALTの4人で指導した事例。  
単元名 Lesson 6 I Have a Dream  
9時間扱い中第5時 Bコース（中程度）の生徒に、ALTと共に英語によるスキットで、黒人差別の状況を演じて見せることで、生徒たちは、日本語を介さず黒人差別の具体的な状況や、その理不尽さや黒人たちの辛い心情を知ることができた。

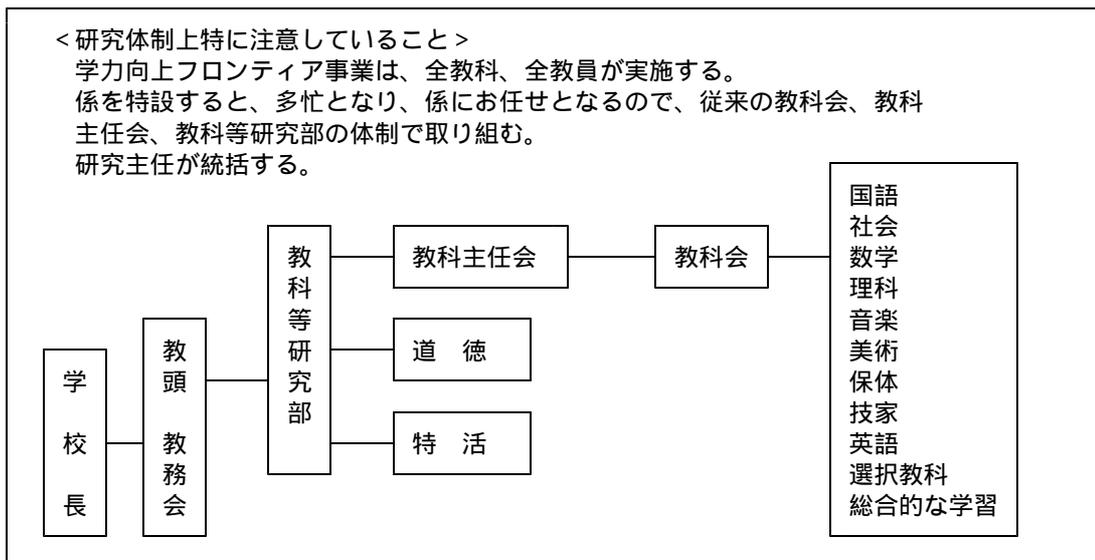
(2) 年次ごとの計画

本校は15年度よりの2年間の指定である

平成15年度	<p>テーマ 『確かな基礎的な学力の定着』と、『学び方を学ぶ学習』の両面をねらう学習指導はどうあったらよいか。</p> <p>研究の見通し 本校生徒の客観的な学力を評価し、実態を把握する。 ・全国標準診断的学力検査（教研式NRT）を4月に実施5教科 ・平成15年度長野県学力実態調査（長野県教委） 上のテストの結果と、教師の主観的な評価から課題を明確にし、日常の授業を中心に仮説を立てて研究する。 年度の終盤見直しをし、成果と課題を明確にし、16年度の研究に向けて仮説を立て直す。</p> <p>研究の内容・方法 ・今まで実施してきた「全教科で校内の公開授業研究」と「少人数指導で加配をいただいている数学と英語」において、各教科の課題にむけ授業研究を推進する。 ・数学と英語は、校外への公開授業研究会を持つ。それ以外の7教科は、校内の公開授業で研究し、視点は学力向上のテーマに沿って行う。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 『確かな基礎的な学力の定着』と、『学び方を学ぶ学習』の両面をねらう学習指導はどうあったらよいか。</p> <p>研究の内容・方法 現在計画中であるが、15年度と同様の研究を継続・発展させたい。 日常の授業で研究実践する。 全教科で研究実践をすすめる。 公開授業研究は英語、数学、と更に2教科を予定している。 全国標準診断的学力検査（教研式NRT）を継続実施し、生徒の実態把握の一つとしたい。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

- (1) 客観的な評価をすることで、今まで本校の生徒のマイナス面をクローズアップして捕らえていたが、本校生徒のプラス面も分かりよかった。また、全国や県の実態と比較して本校生徒を観ることができてよかった。
- (2) 我々の意識が、「学力向上フロンティア事業だからといって、特別の研究でなく日頃の授業の研究をしていけばいい」ということが共通理解できた。
- (3) 今まで、生徒に気づかせたり、発見させることだけで授業が終わっていたが気づいたり、発見したことを全員の生徒に定着させることが大切で、そのための学習場面や、学習時間の確保をしなくてはならないということが分かってきた。

### 2. 今後の課題

- (1) まだ我々の意識の中に、『学び方を学ばせる』ことは研究として貴重なことであるが、『基礎的な学力の定着』の為の研究は次元が低いと考えるふしがある。
- (2) 「学習のねらい」の明確な授業の実践と、そのねらいに対して、どこまで達成できたかを評価し、更に、次の時間に何を解決すればいいか課題把握する一連の授業の流れの研究・実践をしたい。
- (3) 個に寄せた授業の実践をするため、生徒の見取りと予想、そして、教材化の工夫が課題である。
- (4) 基礎的な学力を定着させる上で、授業でどのように扱えば、生徒は、目的・主体的に、習熟のための学習に取り組むか。また、定着のための場と時間を一時間の授業の中にどう位置づけるか。
- (5) 生徒に考え気づかせることと、教師が出で教えるべきことの区別をし、授業の中での的確に使い分けること。

### 学力把握のための学校としての取組

全国標準診断的学力検査（教研式NRT）平成15年4月5教科実施した、16年度も実施し、生徒の変容、研究成果、新たな課題を把握したい。平成15年度長野県学力実態調査（長野県教育委員会）を抽出で実施した。16年度も実施し、学力の把握につとめたい。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 15、16年度の研究校であるので、成果の普及はおこがましい。ただし、共に研究をするという意味で、飯田、下伊那地区のフロンティア事業指定校とは、公開授業はその都度連絡をしあい、互いに参観しあい研究会にも出席して意見交換をしている。
- ・ 同じ阿智村の3つの小学校と、阿智村内にある阿智高校には公開授業はその都度案内状を出し、授業参観と、授業研究会にも参加いただき貴重な示唆をいただいている。
- ・ 平成16年度の予定  
公開授業研究会 11月に実施予定 教科は数学と英語他に1～2教科  
研究成果の普及のためのHP作成は未定  
パンフレット等は負担にならない最低限必要なものを作成する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校

【学校規模】  3学級以下  4～6学級  
 7～9学級  10～12学級  
 13～15学級  16学級以上

【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 その他

【研究教科】  国語  社会  数学  理科  
 外国語  音楽  美術  技術・家庭  
 保健体育  その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無  
(数学0.5 英語0.5)